



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第  
11号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第45巻第11号). 泌尿器科紀要 1999, 45(11): 816-816

ISSUE DATE:

1999-11

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114146>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

#### 編 集 後 記

今年度の文化功労者に日野原重明先生が選ばれたことは、本当に嬉しいことである。文化勲章や文化功労者は医学関係の場合、際だった研究業績をあげた人々に贈られることが多い。もちろん、日野原先生も立派な研究業績をあげておられるが、それよりも医学教育、看護教育、医療制度の改善などに尽くされたご業績が評価されてのご受賞は、誠に意義深くよろこばしいことである。

1911年生まれの方は今年88歳になられたが、50年以上にわたる内科臨床医としての日常業務の上に、医学教育、特に研修医教育、看護教育の改善に日本のリーダーとして果たされた先駆的ご活躍、聖路加国際病院の理事長、病院長、聖路加看護大学の学長という管理職としてのご業績など、ただただ感服するのみである。さらに講演、執筆、いろいろな団体の役員など、分刻みのご予定を何でも無いかのようにこなしておられる。集中して仕事をする習慣がつけば何でもないと仰るが、真似のできることはない。

先生はウィリアム オスラー博士を心の師として今日にいたったといわれているが、日本には日野原先生を心の師と仰いでいる人々は小生を含めて少なくない。いつまでもご健勝であられることをお祈り申し上げる。

(吉田 修)